

第2回審議会での委員発言概要と対応

参考資料 1

【全般】（審議会全体）

項目	意見概要	対応の方向性
全般	<ul style="list-style-type: none"> 今年度スポーツ推進の条例制定に向けて動き出したことが、本審議会を開催してきた最大の成果だと感じる。 	<p>条例の制定については、本審議会ですべてにいただいた意見を基に、「楽しく」「自発的に」といった奈良県独自の内容を作り上げることができました。今後は、条例、及び、第2期スポーツ推進計画を基に、いきいきと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県を目指し進めていきます。</p>

【全般】

項目	意見概要	対応の方向性
全般	<ul style="list-style-type: none"> 以前は障害者のスポーツ施策として、施設が用意されなければならないという発想だったが、まずは障害のあるなしや年齢に関係なく、だれもがどこでもスポーツを通じて幸せな生活が送っていけるという発想が必要だと思うが、今回計画にも入っており嬉しく思う。 	<p>引き続き、「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくり」を基本理念にスポーツ振興に取り組んで参ります。</p>
3 (P7)	<ul style="list-style-type: none"> 健康長寿で一番大事なことは感謝の気持ちを持つこと。 子どもに好奇心を持たせることが健康長寿につながる。 	<p>幼児向け運動・スポーツプログラムを実施していく上で、指導者が意識して子どもたちを指導できるよう努めて参ります。</p>
3 (P7)	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念4「だれもがスポーツに親しめる環境づくり」の部分について、スポーツ、そして教育で一番大事なことは、自己の確立だと思う。自分をどうしていきたいのかを考えること、そしてそれを実現できる指導者の育成が必要。 	<p>指導者育成を推進する上で、研修等を通じて指導者に意識付けできるよう努めて参ります。</p>
3 (P10)	<ul style="list-style-type: none"> 地域別スポーツ実施率の結果を見ると、地域間格差が生じていることが分かる。ただ、計画の中で、地域間格差解消に向けた施策は直接的には明示されていないのではないかと。各地域の環境や立地特性、現況が異なるのは奈良県の特徴であり、分かり 	<p>P23「4 観るスポーツ・楽しむスポーツの機会創出」に、「(3) 山間部での運動実施率の向上」を追加。 「身近な運動普及啓発事業等、身体を動かす機会の少ない山間部の住民に楽しく運動してもらえ施策を展開し、運動実施率の向上を目</p>

項目	意見概要	対応の方向性
	<p>やすい形で明示してはどうか。</p>	<p>指します。」と記載しました。 ※R 4 年度から試行的に「身近な運動普及啓発事業」を実施。（4 年度は上北山村にて運動教室を開催。） R 5 年度は新規に事業化し、実施します。</p>
<p>3 (P10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間格差のフォローに総合型地域スポーツクラブが重要な役割を果たすと考えた場合、施策目標が会員数でよいのか。地域間格差解消に寄与する数値を設定できないか。 	<p>地域間格差の改善にあたり、総合型地域スポーツクラブはじめ地域のスポーツ団体が果たす役割は重要であると認識しています。</p> <p>他方で、p15 (2)「総合型地域スポーツクラブの活動支援」に記載のとおり、少子高齢化が進む中、会員の減少や高齢化などにより、自立活動が困難なクラブの増加が見込まれることから、共同運営など、持続可能な活動に向けた新たな仕組み作りが求められています。</p> <p>地域間格差の解消も念頭に、共同運営や、エリアで核となり広域的に活動するクラブの育成など、新たな仕組みづくりの検討を進めていきます。</p>
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・御杖村は 65 歳以上の人口が 60% を超えており、団体スポーツに取り組むことが難しい。総合型地域スポーツクラブもないことから、計画の中で、地域間の交流ということについてももう少し強く言えないか。 ・地域でできる取り組みとして、奥大和、南部東部のサイクリングの取組について記載があり、山間部へも配慮があると感じる。 	<p>P27「(6) だれもが気軽にスポーツにふれることができる環境づくり」に、新たに「・」を追加し、「地域の枠を超えて、だれもがスポーツに親しむことのできる環境づくりや機会の提供に努めます。」と記載しました。</p>

3	<ul style="list-style-type: none"> 子どものスポーツに対する意識は、家庭内のスポーツに対する理解に影響を受けるといわれている。地域特性を活かした親子で実施できそうな軽いスポーツを検討すると良いのでは。 	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、イベントや施策の企画立案に取り組んで参ります。</p>
---	--	---

【柱1 スポーツ活動の推進】

1 県民参加型スポーツの推進

項目	意見概要	対応の方向性
全般	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康と普段の運動が具体的に結び付くと、運動を実施する機会が増えるのではないかと、運動を行うことや食習慣を変えることで、抱えている症状にどのような効果があるのか、目に見えてわかると良いのではないかと。 	<p>令和5年度新規事業として、ショッピングモールや県主催イベント等で、個人の運動能力を測定しフィードバックする「運動のきっかけ創出事業」を実施します。まずは自分の身体の状態に目を向けてもらい、運動の必要性に気づいてもらうきっかけをつくります。</p>
全般 (P28)	<ul style="list-style-type: none"> 過疎地域では、各自治体に総合型地域スポーツクラブを設立することが難しいことも想定される。DXやICTの活用推進が必要であるが、過疎地域の方には伝わりにくい可能性があるため、わかりやすくフォローする文章を記載すべきではないかと。 	<p>p28「(2) デジタル技術を活かしたスポーツDXの推進」について、わかりやすい表現となるよう、以下のとおり文章を追記しました。</p> <p>「例えば、オンラインでフィットネスや体操などの動画を配信したり、教室・イベントを開催したりする、VR技術によって仮想空間でフィットネスを楽しんでもらう、時計型などのウェアラブル端末を活用して健康管理を行い、各自に適した運動プログラムを提供するといったことが想定されます。」</p>

2 子どものスポーツの推進

項目	意見概要	対応の方向性
(2)	<ul style="list-style-type: none"> 育むのは子どもの健全な「身体」だけではなく、「心身」もではないかと。 	<p>ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に以下のとおり修正を行いました。</p> <p>P16 2 (2) <修正前> 子どもの体力向上と健全な<u>身体</u>の発達に向けて</p>

項目	意見概要	対応の方向性
		<修正後> 子どもの体力向上と健全な <u>心身</u> の発達に向けて
(3)	・部活動の地域移行について、元気なリタイア世代に指導に携わってもらうことで、リタイア世代の活力にもなるのではないか。	指導者育成においてしっかりと検討し取り組んで参ります。
(3)	・部活動の地域移行について、コストの問題等でスポーツに関わる子供が減ってしまうのではないかとすることを危惧している。 ・モデル校の指定や、地域別の取組など、方針を持って進めていけないか。	今後、総合型地域スポーツクラブや大学等、多様な団体と連携して地域移行を進めていく過程で、コスト面でどのような問題が生じるか把握し、国のガイドラインも踏まえて対応を検討していきます。
(3)	・「新たな地域クラブ活動」との記載について、総合型地域スポーツクラブとの関係が分かるように、書いてはどうか。	一つ目の「・」を以下のとおり修正しました。 「 <u>総合型地域スポーツクラブ</u> やスポーツ少年団といった団体～と連携して、学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進めていきます。」
(3)	・県立高校・中学校・・・となっているが、中学校を先にする方がわかりやすいのではないか。	ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に修正を行いました。

3 生涯スポーツの推進

項目	意見概要	対応の方向性
全般	・スポーツと健康の関係について、軽運動は身体によいことはわかっているが、トップアスリートが実施している運動強度では、身体に様々な障害も出ている。今後、スポーツ医科学のデータをフィードバックするような仕組みも求められる。	P22 2 「(2) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けたアスリートの育成」において、「多様な専門機関等との連携を図り、スポーツ障害の予防や治療・サポートも含めたスポーツ医・科学等を活用したサポート体制の整備を検討します。」としております。 今後のアスリート育成において、ご意見のような仕組みが実施できないか、検討していきます。

(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民の 70%弱はスポーツへの無関心層であり、自然にスポーツができる環境づくりが重要。「一駅歩こう運動」等を積極的に推進すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツに興味のない人に身体を動かすきっかけをつくってもらうため、令和5年度に新規事業として、ショッピングモールや県主催イベント等で個人の運動能力を測定しフィードバックする「運動のきっかけ創出事業」を実施します。 ・「一駅歩こう運動」等のご意見は、無関心層へのアプローチを行っていく上での参考とさせていただきます。
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯としてまとめてあるが、妊産婦や乳児を抱えている時期の保護者の運動の重要性も指摘されているので、検討してもらえれば。 	<p>ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、p17 (1)、(2)を修正しました。</p>
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は生活スタイルが変遷し、40～50代の働き盛り世代も生きがいに費やす時間が増加している。次世代育成の大事な人材として活躍してもらってもよいのでは。 	<p>指導者等の人材育成において、40～50代の働き盛り世代にも活躍してもらえよう方法を企画立案し、取り組んで参ります。</p>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳スペースやキッズコーナー等は男性も関わる時代である。ジェンダーの観点から記載を改めるべき。 	<p>ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、p17 (1)、(2)を修正しました。</p>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳室等の設備面についてはここで記載するか、柱3の1施設・環境の整備で記載するか、パブコメ前に検討すべき。 	<p>ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、p28 1 (6)の4つ目の「・」に再掲しました。</p>
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル「予防」という言葉の使い方を再考してほしい。予防という言葉に、悪い事態を防ぐというニュアンスがあり、なってしまった場合は自己責任になるのかと解釈されてしまう。「フレイルに対応したサポートをする」といったニュアンスにしてはどうか。 	<p>ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、p17 3 (3)を以下のとおり修正しました。</p> <p>「サルコペニア（筋肉減弱）やフレイル（虚弱）<u>に対応した健康増進</u>をサポートしていきます。」</p>

【柱2 スポーツ振興を担う人材の育成】

全般

項目	意見概要	対応の方向性
現状・課題 (p19)	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学前児童にとってはあそびで身体を動かすことが心身の健やかな成長に繋がると言われています。」とあるが、子どもが大きくなってもスポーツに親しめるようになってほしい、といった趣旨をどこかに入れられないか。 	<p>子どもの頃からの運動の習慣化については、p13 柱1の【現状・課題】において「今後も幼児期からの運動習慣形成に向けた取組を続けることが重要」と盛り込んでおります。</p>

項目	意見概要	対応の方向性
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成は施設整備より時間がかかるため、発掘も重要。柱2の「1 人材の育成」において、人材の発掘に関する内容は盛り込めないか。 	<p>P22 2(1)に、「次世代アスリートの発掘・育成などの戦略的な強化活動を支援」と記載しております。</p>
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの能力を引き出す「人材の発掘」が必要。 ・持っているものを見つけ、引き上げることができる人材が必要。 	<p>人材育成事業において、子どもひとりひとりのニーズに応えられ、それぞれが持っているものを見つけ引き上げることのできる人材の発掘、育成に努めます。</p>
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピックの決定から開催までの9年間で様々な教育プログラムが実施され、スポーツを通じて共生社会について考え、学ぶことができた。奈良県も国スポ・障スポというビッグスポーツイベントに向けて、様々な取組が展開できる。 	<p>「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくり」を基本理念に、多様な人々がともにスポーツを楽しむとともに、共生社会や多様性について気づきのきっかけとなるようなイベントや施策の企画立案に取り組んで参ります。</p>
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピックに向けて、オリンピック選手とパラリンピック選手と一緒にイベントや試合を行った。 ・アスリートもイベント参加者も様々な気づきがあり、興味・関心を強める機会となった。多様性という観点から、今後も継続できると良い。 	
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピック以降、スポーツ大会へのボランティア応募が以前の10～20倍になっている。 ・ボランティアのスキルや考え方も成熟している。背景にはずっと続けてきたボランティア講座の成果が出ているのではないか。 ・スポーツを通じた共生社会ができていているのでは。 	<p>P23 3(1)に記載のとおり、障害者スポーツボランティア人材バンクやスポーツボランティア登録制度などにより、スポーツボランティアの育成を一層進め、人材の育成・増加を目指します。</p>
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・アスリートは様々な人の支えで競技に取り組んでおり、応援や支えてくれる人への感謝の気持ちが強い。 ・アスリートには、スポーツが社会にどのような影響を与えるかといったところまで、学ぶ機会が増えていくと良い。 	<p>アスリート育成にあたり、研修等を通じて、アスリート本人が学べる機会を提供できるよう努めて参ります。</p>

全般	<ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツのドクターが奈良県内にほとんどいない。全国でも 50 人程度であり、今後育成が求められる。 	P21 1の(1)スポーツ指導者等、マネジメント人材の確保、養成 の三つ目「スポーツドクターの育成等」を、「スポーツドクター、パラスポーツドクターの育成等」に修正しました。
----	--	--

1 人材の育成（コーディネート・マネジメント・指導者）

項目	意見概要	対応の方向性
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナーやスポーツトレーナーは「スポーツ指導者」ではないので、施策タイトルにスポーツ指導者「等」と入れるなど、記載内容を包含する施策タイトルを検討してほしい。 	ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、施策タイトルを(1)スポーツ指導者等、マネジメント人材の確保、養成 に修正しました。

3 サポート体制の整備

項目	意見概要	対応の方向性
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを持続可能なものにするため「稼ぐ」観点が重要。マーケティング活動を含むマネジメントができるスキルを持つ人材の教育や確保が重要。 	これまで県として検討してこなかった視点であり、貴重なご意見として、今後、どのように取り組むか検討して参ります。
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・アスリートが故郷に帰り活躍できる環境づくりが必要であり、働く場所を確保することが重要。経済界を巻き込んだ会議を行って理解を求めるアプローチが必要。 	R 5 年度より、新規事業として「アスリート県内定着プログラム検討事業」を実施します。 R 5 年度は、選手の採用を検討してもらえらる企業の発掘に着手するほか、選手や指導者、企業、競技団体から意見聴取を行い、次年度以降のプロジェクト運用に活用します。
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー界では、県内 60 人程度の中学生が選抜で選ばれ、うち 50 人程度が県外の高校に入学する。 ・高校から県外にでると、なかなか戻ってくる機会がない。 ・商工会議所等と連携し、所属選手の雇用を進めているクラブもある。そういう場をつくっていくこともセカンドキャリア支援としては重要ではないか。 	

【柱3 スポーツに親しめる環境づくりと地域の交流促進および地域の活性化】

1 施設・環境の整備

項目	意見概要	対応の方向性
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間格差解消として、学校の体育館等の新改築に合わせて社会体育施設として地域の方が使いやすくする取組が出てきている。一般開放以外の手法もあり得るのではないかな。一般開放「等」と含みを持たせてはどうか。 ・過疎地域の運動実施率向上は都市部よりも施策の必要性が高いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、以下のとおり文言を修正しました。 「小・中学校、高校体育館施設の一般開放等や」 ・過疎地域での運動実施施策の必要性については県でも認識しており、R4年度に、山間部（上北山村）の住民に身体を動かしてもらうイベントを実施（身近な運動普及啓発事業）。R5年度は新規に事業化し、実施します。
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化を受けて、学校統廃合等により廃校が増加している。利活用の方法を検討しているが、施設としてみると運動場や体育館を有しているにも関わらず、スポーツ施設としてほとんど使われておらずもったいない。既存の高校部活動の練習場所として、廃校の施設を使用することなども含めて検討してほしい。 	<p>P27 1 (4) に記載の奈良県サッカー協会のフットボールセンター用地は、旧県立高校の用地を貸与し、活用いただいています。</p> <p>引き続き、既存施設の跡地利用等に取り組んでいきます。</p>
(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・古いスポーツ施設では和式トイレが多い。多目的トイレへの改修だけでなく、洋式化も進めてほしい。対応すべき施設が多いため、一気に改善することが難しいことは理解できるため、計画への書き方は工夫が必要。例えば、指定管理者等と連携することも考えられる。 	<p>ご意見を踏まえ、パブリックコメント実施前に、「多目的トイレへの改修」を「<u>和式トイレの洋式化や多目的トイレ等への改修</u>」に修正しました。</p>

2 情報発信

項目	意見概要	対応の方向性
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・知られていないイベントを周知することで参加者が増えることもある。更なる情報発信を継続してほしい。 	<p>SNS や動画での告知等、時代にあった周知方法も増やしていきます。</p>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ DX は相互通行のコミュニケーションが必要。提供するだけでなく、選手や人々のデータをセンシングし、分析して提供していくことが重要。 	<p>まずは、スポーツ DX についてしっかりと勉強し、今後取り組んで参ります。</p>

5 国スポ・全スポ開催を契機としたスポーツ施策の展開

項目	意見概要	対応の方向性
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県ならではの歴史的なスポーツ遺産（相撲や蹴鞠、武道、宝蔵院の槍等）等を組み込み、レガシーについて検討してはどうか。 	歴史的なスポーツ遺産を組み込んだ施策ができるよう努めて参ります。